

月の美しい季節になりました。校内ではY校祭にむけての準備が着々と進んでいて、販売代金の設定などに商業科の本気が見えます。『プライシングの技法』下寛和(675シ)では、コストや競争環境も考え、商品やサービスの価値に見合った価格を設定するための技法が、わかりやすく書かれています。「ニンテンドースイッチはいくらが妥当か」のページを読んだら、その価格設定に納得できました。文化祭の商品の値付けだけでなく、新たなマーケティングのアイデアが湧いてきそうな本なので、将来起業したい!と思っている方は特に、ぜひ手にとってみて知識を増やしてください。

司書

📖 第35回 読書感想画中央コンクール 📖

今年も「読書感想画コンクール」の募集が始まりました。指定図書からでも好きな本からでも、これかと思える題材を見つけたら、その本の感想を絵画で表現してみてください。一人で指定図書・自由図書それぞれ各一点ずつ作品を描いて両方に応募することも可能です。校内の締め切りは**12月15日**です。詳細は美術科の志村先生または司書までどうぞ。



📖 洋書のPOP! 📖

今年も1年7組の「プラクティカル・イングリッシュI」の授業で取り組んだ「洋書のPOP」が図書館内に掲示されています。どのPOPもとてもかわいくて、カラフルで、凝った作品ばかりです。中でも「ロミオとジュリエット」を舞台装置のように立体的に作った4つの連作は見ごたえがあります。ぜひ、さまざまに工夫を凝らされた素敵なPOPを見に図書館へ足を運んでください。



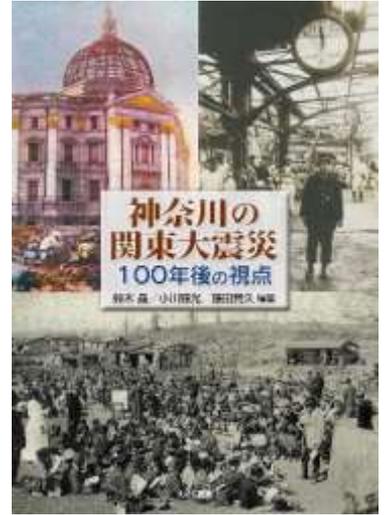
📖 Y校の先生の本 📖

本校社会科の伴在渚先生が執筆に携わった『神奈川の関東大震災—100年後の視点』(213ス)という本が、8月末に、えにし書房から発行されました。

「横浜市立横浜商業高等学校の被害と授業再開を目指す美澤進氏について」というページのコラムを担当されています。関東大震災の数日後に亡くなったY校初代校長の美澤進先生が、関東大震災の際にどのような対応をされたのかについて、詳しく書かれています。コロナ禍や東日本大震災時など、現代の状況にも照らし合わせて記されている文章を読んでいると、講堂入り口の銅像でしか知らなかった美澤先生の間人らしい姿が浮かび上がってくるようです。

伴在先生よりメッセージをいただきました。

“「Y校が載っている！」ということからでも良いので、身近な歴史に触れてみてください。”



📖 こんな資料を活用してみよう 📖

図書館には、本だけでなく、新聞や雑誌など、受験や就職活動に役に立ちそうな資料がいろいろとあります。

1、2年生も先輩方の話を参考にしながら、図書館の資料を活用して未来への準備をしませんか。

○『現代用語の基礎知識 2023』(031ジ 大型辞書コーナー 禁帯出)

ここ一年間の主なニュースについて、それぞれほどよいボリュームでわかりやすく伝えています。世の中のことをあまり気にしていなかったけれど、面接で聞かれた時のために、という方におすすめします。

○『月刊 新聞ダイジェスト』(雑誌コーナー)

ひと月前の一か月分の新聞記事が一冊にまとめられた雑誌です。巻末に「時事問題模擬試験」「最新時事用語の解説」というページがあり、この数ページを見るだけでもその月の重要なニュースを把握できそうです。

○「議会かながわ」(雑誌コーナー)

神奈川県議会の定例会の様態を報告している小さな新聞です。代表質問や一般質問のページを見ると、神奈川県でどんなことが問題とされているのか、どんな課題を抱えているのか、それらの問題がどう解決に向かっていくのか、などがわかります。難しい用語解説のコーナーもあって、わかりやすい紙面です。

○『秘書検定 2級実問題集』(336ジ 参考図書コーナー)

秘書を目指すわけではなくても、電話の受け方や切手の貼り方、敬語の使い方やのし袋の書き方などの社会人としてのマナーや、商業科の知識が発揮できる文書や資料の扱いについての資格を取得したら、将来どんな道に進んでも、きっとどこかで役に立つ知識が身に付けられると思います。



📖 今月のおすすめ本 📖

○『のっけから失礼します』三浦しをん (914ミ 文庫コーナー)

『舟を編む』や『風が強く吹いている』、『まほろ駅前多田便利軒』など、映像化された作品も多い三浦しをんのエッセイ集『のっけから失礼します』を読んでいたら、なんとY校が出てきました！

「非実在野球人生」というタイトルの、とある出版社の40代の女性編集者が「自分がプロ野球選手だったら、どの球団に入団し、どんな選手で、どういう野球人生を歩むのか」を妄想しているという、5ページの短い文章の中に、「私は横浜商業高校を卒業し、ドラフト3位で横浜ベイスターズに入団した」という設定になっていると語る場面が出てきます。Y校って、本屋大賞作家のエッセイに描かれてしまうような、そんなすごい学校だったのか……と、あらためて感じ入ってしまいました。

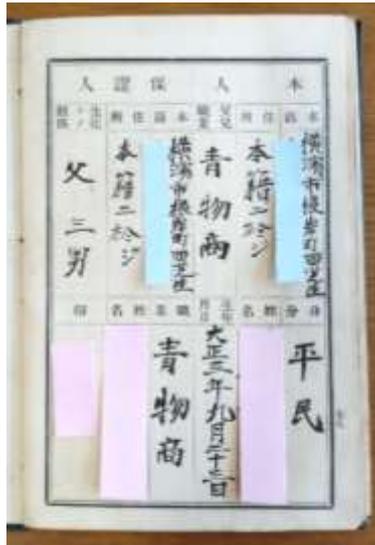
Y校アーカイブ vol. 20 「生徒手帳」

昭和2年から昭和7年の間に在席した生徒の「生徒手帳」です。昭和57年に卒業生ご本人より寄贈されました。縦約15cm、横約10cm、厚みが8mmほどの手帳で、表紙には「横濱商業学校生徒手帳」とあり、記名のための紙が貼られています。表紙をめくると、「朕惟フニ我カ皇祖皇宗国ヲ肇ムルコト……」から始まる勅語があり、詔書が続いた後に「校訓」が記されています。最後のページには持ち主ご本人の本籍及び住所や姓名とともに「身分」を記す欄があり、「平民」と書かれていることに時代を感じます。

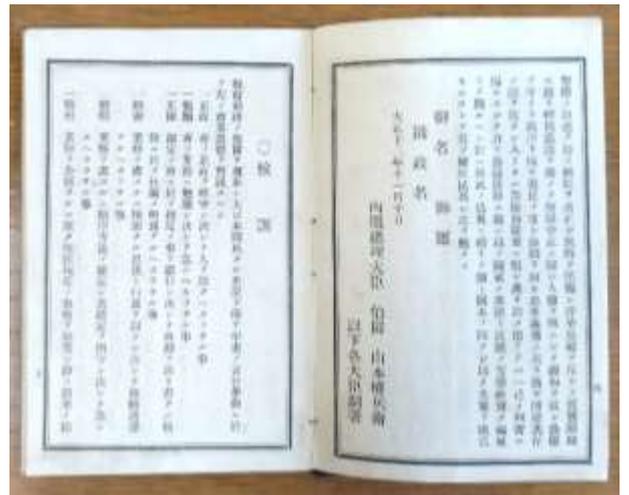
表紙



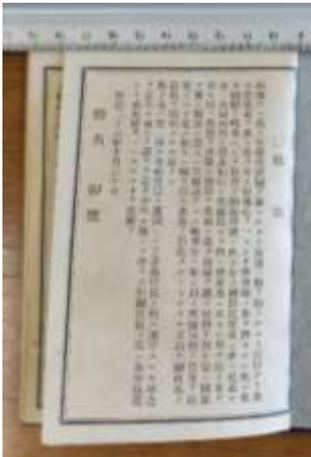
青物商は現在の八百屋さん



校訓のページ



勅語のページ



成績が生徒手帳に



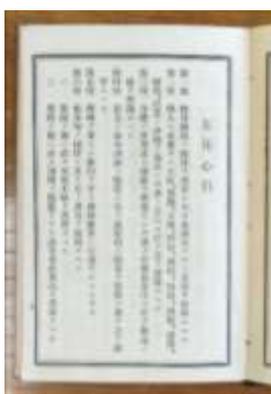
成績は 甲乙丙…



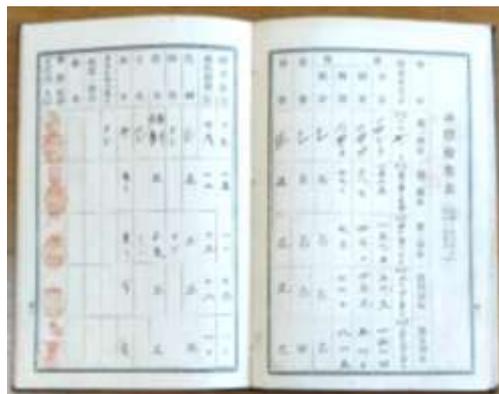
毎年美澤皆勤賞



生徒心得



健康診断の結果



5年間で一度だけ体育を見学 授業料は年間で35円

